

目次

(9) 製品関連記事

- ▽「利き手でなくても安定／アーネスト」
- ▽「シャープ ナゾル2 ペン型辞書、音声機能追加」

(10) その他、各種関連記事

- ▽「耳で聴かない音楽会 音を振動や光に変え表現
／日本フィルハーモニー交響楽団と筑波大学」

(11) 新刊紹介

- ▽『発達障害の子どもたちの進路と多様な可能性
「学びづらい」「学びにくい」中学生・高校生の未来』
- ▽『発達障害の女の子のお母さんが、早めに知っておきたい「47のルール」』
- ▽『発達障害のある高校生・大学生のための上手な体・手指の使い方』

(9) 製品関連記事

▼「利き手でなくても安定／アーネスト」

使いやすい「ユニバーサル爪切り楽切りさん」。本体の下に設けた2つのリングに指を通して使用すると、利き手でなくても安定して持つことができる。爪に合わせた丸みのある刃は開きが大きく、14ミリとワイド幅なので爪の大きな人や足の親指でも切りやすい。切った爪が飛び散りにくいケースと、てこ部には爪やすり付き。

(日経MJ 4月23日5面より抜粋)

▼「シャープ ナゾル2 ペン型辞書、音声機能追加」

印刷文字をなぞるだけで言葉の意味が調べられるペン型電子辞書の新シリーズ。音声機能を新たに搭載し、単語の発音を効果的に学習できる。英語と中国語モデルを用意した。英語モデルは和英、英和を、中国語モデルは日中、中日を切り替えられる。

ペン先にあるスキャナーで文字をなぞると約2秒で画面に意味や熟語を表示し、キーボードやペン入力の一般的な電子辞書よりスムーズに使える。読み取れる文字は6ポイント(約2.1ミリメートル)~22ポイント(7.8ミリメートル)程度。単4型のアルカリ乾電池かニッケル水素充電電池2本かマイクロUSB給電で駆動。単4電池で約25日間動く。

ナゾルは2016年12月に発売。現在は和英、英和、国語モデルがある。
(日経産業新聞 4月27日16面より抜粋)

(10) その他、各種関連記事

▼「耳で聴かない音楽会 音を振動や光に変え表現 ／日本フィルハーモニー交響楽団と筑波大学」

日本フィルハーモニー交響楽団と筑波大学准教授は、音楽と最新技術を組み合わせたプロジェクトを始めた。振動や光を使ったコンサートを開催。抱きかかえるだけで音楽を楽しめる球状の装置も開発した。耳だけでなく触覚や視覚など全身を使った新しい音楽の楽しみ方を提案する。

今月22日に東京国際フォーラムで「耳で聴かない音楽会」を開催した。

音楽に合わせてリズムカルに振動したり光ったりする球体のデバイス「サウンドハグ」を新たに開発した。

バスケットボール程度の大きさのサウンドハグはオーケストラの楽器の音を集音マイクで拾ってデジタルデータに変換。振動スピーカーや発光ダイオード(LED)照明を動かす仕組みだ。音の大きさで振動の強さや、音程で光の色がピンクや青などに変わる。触覚と視覚で音楽を楽しめる。

ジャケットに数十個の超小型スピーカーを内蔵したウェアラブル端末「ライブジャケット」も用意した。低音や振動も全身で感じられる。音楽会では聴覚に障害を持つ参加者がこのジャケットを着て指揮者を体験するイベントも開催した。

(日経MJ 4月27日4面より抜粋)

(11) 新刊紹介

▼『発達障害の子どもたちの進路と多様な可能性

「学びづらい」「学びにくい」中学生・高校生の未来』

ADHD や LD など発達障害の子どもたちにとって、学校選択は大きな問題。スペシャルニーズを持つ生徒に焦点をあてた明蓬館高等学校校長が、将来を見すえた、保護者が考えるべき対応策を明快に説く。

著：日野公三（ひの・こうぞう）

発行：WAVE 出版

本体価格：1500 円（税別）

ISBN：978-4-86621-123-7

▼『発達障害の女の子のお母さんが、早めに知っておきたい「47 のルール」』

「性の被害者」になりがちな発達障害の女の子を守るために、保護者や支援者が気をつけるべき点を「47 のルール」としてわかりやすくまとめた書。療育支援 Q&A も収録する。

著：藤原美保（ふじわら・みほ）

発行：健康ジャーナル社

本体価格：1500 円（税別）

ISBN：978-4-907838-89-8

▼『発達障害のある高校生・大学生のための上手な体・手指の使い方』

動作のぎこちなさ、手指の不器用さ等がある高校生・大学生が、学習や牛活、就活でつまずきやすい動きを取り上げ、それらを改善するための体操、動作のポイントを写真で紹介。教員や保護者のためのサポートのコツも盛り込む。

著：笹田哲（ささだ・さとし）

発行：中央法規出版

本体価格：2000 円（税別）

ISBN：978-4-8058-5648-2

(編集後記)

5月5日の端午の節句を前に、和菓子屋さん「かしわ餅」が並ぶ季節になりました。江戸時代、風俗史家であった喜田川守貞氏が「守貞謾稿」に、「江戸には味噌餡(砂糖入味噌)もあり、小豆餡は葉の表、味噌餡は葉の裏を出した由。」と、記しました。

このような工夫があれば、包まれた中味が何であるか、柏の葉の裏表が見ただけで、触っただけで分かります。

日本には、江戸時代からユニバーサルデザイン・共用品のような柔軟な発想があったのだなあと、昔に思いをはせながら、今日もひとつ「かしわ餅」をほおばりたいと思います。(森川美和)

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース (ブログ) <http://www.kyoyohin-news.org/>